

** 曲目 雑記 **

1.イン・ザ・ムード (ジョー・ガーランド作曲)

グレン・ミラー楽団の代表的な楽曲として知られています。映画の「瀬戸内少年野球団」でも使われました。スウィングの軽快さがどこまで表現できるでしょうか。

2.1 Feel Pretty (レナード・バーンスタイン作曲)

バーンスタインはアメリカ人の作曲家、指揮者であり、ピアニストとしても知られています。曲はミュージカルのウエストサイド物語から。今を時めく指揮者の佐渡裕はバーンスタインの愛弟子です。

3.少年時代 (井上陽水作曲)

藤子不二雄から直接依頼されて作られた曲。陽水はギター演奏でも有名なコーヒールンバも独特の感性で歌っています。

4.夜霧のしのび逢い(ジョー・ヴァン・ウェッター作曲)

ベルギーのバンド、ロス・マヤス楽団のリーダーが『一人ぼっちの浜辺』として作曲。クロード・チアリのギター演奏でこの曲名に変わってしまいました。クロード・チアリの名が出るとなぜかニ・ロツソも対で思い浮かびます。

5.おばあさんのクラブサン(アルフレッド・コタン作曲)

クラブサンとはチェンバロのフランスでの呼び名。有名な「アルハンブラの思い出」はこの作者アルフレッド・コタンに献呈されたとの説があります。

6.月光 Op.35-22 (フェルナンド・ソル作曲)

いつのころからか「月光」という名で親しまれている練習曲。アルペジオの習得を目的として書かれたもの。ここでは二重奏に編曲されています。

7.「展覧会の絵」より プロムナード、古城 (モDEST・ムソルグスキー 作曲)

「プロムナード」は展覧会の一つ一つの絵を見てまわる様子を表しています。「古城」はその題名の通りひっそりとたたずむ古城の様をゆったりとしかも華やかさを添えて表現しています。「古城」ではパートが交代します。

8.オリエンタル (エンリケ・グラナドス作曲)

グラナドスのスペイン舞曲集から一昨年はアンダルーサを、今年はオリエンタルを選びました。どちらも切ない旋律が含まれる忘れがたい曲です。中間部は過去を振り返るように歌いますが装飾音符や32分音符がちりばめられ3人合わせる練習に苦労しています。

9.青春の輝き (ジョン・ベティス作曲)

カーペンターズのヒット曲です。題名にある青春特有の、心の揺れを1stはリズムを揺らし、2ndは澄んで輝いた心をハーモニクスで、3rdは密かな胸のときめきを低音弦で、それぞれが表現しようと思っています。それらが伝わりますか……

10.ソナタ (藤井敬吾作曲)

この曲は1999年秋に作曲者自身が、柴田さんとドイツで演奏するために書かれた曲です。二つの楽器が対等になるように作曲されています。第4楽章は自身作曲の「ギター協奏曲第2番」の第3楽章を編曲されたものです。

11.マンドリン協奏曲ハ長調 RV.425 (アントニオ・ヴィヴァルディ作曲)

この曲を一躍有名にしたのは79年のアメリカ映画「クレイマー・クレイマー」です。ダスティン・ホフマンとメリル・ストリープが共演しました。ヴィヴァルディの協奏曲は重くなりがちなテーマの映画に対し、対照的な明るさで映画に面白い効果をもたらしました。

12.サラバンド (ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル作曲)

ヘンデルは、バッハとほぼ同じ時期に活躍したバロック期を代表する音楽家です。バッハを「音楽の父」と称しますが、このヘンデルは「音楽の母」とも呼ばれています。

13.アストリアス (イサーク・アルベニス作曲)

ピアノ曲として作られました。後にセゴビアによりギター曲に編曲され単独の小品としてはギター版のほうが原曲よりも有名となりました。伝説とか伝説曲と紹介されています。

14.天国と地獄 (ジャック・オッフエンバック作曲)

全2幕4場のオペレッタ(またはオペラ・ブッフ)の一部。1914年の帝劇初演時の邦題『天国と地獄』と呼ばれ定着しました。日本では運動会で必ずかかる定番です。演奏もついつい走ってしまいます。